

第3回 とよた歴史検定 解答・解説

上 級

問	正 解	テキストページ	解 説
1	ウ	108	旧石器時代は、無土器時代ともいわれ、土器がまだ発明されていない時代。豊田市内での鉄製品使用は弥生時代の終わり頃からである。主に幅1cm以下の細長い短冊状の石器は細石刃と呼ばれる。
2	ア	109, 110	酒呑ジュリナ遺跡（市指定史跡、幸海町）は、縄文時代草創期の遺跡で、愛知県内の土器では最古級の微隆起線文土器が出土した。 <small>びりゅうきせんもん</small> 亀ヶ岡は青森県の遺跡。曾利は長野県の遺跡。火炎土器は新潟県などの縄文時代中期の遺跡を中心にみられる土器。
3	ウ	111	大砂遺跡からは山梨県、長野県、岐阜県の山岳地帯を中心に多く出土している「釣手土器」や「蛇形の把手」が出土した。曾根遺跡・大窪遺跡は高橋地区、水汲遺跡は藤岡地区にある遺跡。
4	ウ	113	木の実は、石皿や磨石を用いてすりつぶした。石鏃は弓矢の先につけた矢じりで、石錐は主に穴をあける用途に用いられた。石棒は男性器を模した祭祀のための道具である。
5	ウ	115	発見される土偶のほとんどは女性像で、再生や豊穡を祈願したものと考えられる。写真の土偶は足助地区の今朝平遺跡出土のものである。
6	エ	124	梅坪遺跡では、小規模な環濠が造られたのちに、幅5m、深さ1m以上で2重の環濠が造られている。高橋遺跡・神明遺跡では環濠は見つかっていない。栃原遺跡でも溝がみついているが、小規模なもので居住域と墓域を区画する溝と考えられている。
7	ウ	125	県指定文化財。高さ98cm、重さ20kg。分布範囲や銅鐸の細部の形状や文様の違いで「近畿式」と「三遠式」に分類される。 <small>さんえんしき</small> 三遠式は、三河・遠江を中心に分布し、本体が6区画の袈裟襷文、吊り手外縁に鋸歯文、内縁に重弧文の文様を施す特徴がある。

問	正 解	テキストページ	解 説
8	イ	120, 121	鉄鏃とは鉄製の矢じりのことである。弥生時代の鉄製品の出土は非常にめずらしい。南山畑遺跡（広川町）では、鉄鏃3点のほか鉄滓や鍛造された鉄片が出土しているため、集落内で鍛冶が行われていたと考えられる。
9	エ	122	川原遺跡（鴛鴨町）からは弥生時代中期後半の方形周溝墓が見ついている。四隅突出型墳丘墓は山陰地方で見られる弥生時代の墳丘墓。経塚は平安時代～中世の経典を埋納した塚。方墳は古墳時代の古墳のひとつの形態である。
10	豊田大塚古墳	131	写真の装飾須恵器は豊田大塚古墳出土のもの。豊田大塚古墳は県指定の史跡になっている。
11	エ	129	宇津木古墳からは内行花文鏡が出土した（県指定文化財）。模様の特徴から「内行花文鏡」と呼ばれる鏡である。日本では主に弥生時代から古墳時代の遺跡から出土している。三角縁神獣鏡も古墳から出土するが、模様に複数の獣や神の像が描かれている。
12	イ	132, 133	上向イ田3号・4号窯では、須恵器や埴輪が焼成された。現状では、西三河地方で最古にあたる古墳時代（6世紀）の窯跡である。
13	イ	129, 130	平戸橋の東方の丘陵地の字名である「馬場瀬」に由来して「馬場瀬古墳群」と呼ばれている。
14	伊保郷印	141	伊保郷は三河国賀茂郡に属す郷のひとつで、現在の保見町・伊保町一帯にあると考えられている。郷印は、他に次田郷印（筑前国御笠郡）が知られるのみで、国内で2つしか残っていない。
15	ウ	140, 141	「延暦十二年」は西暦793年で、奈良時代にあたる。この当時の都は長岡京であるが、この瓦は平城京東部の官衙のある区域から出土した。794年には平安京へ遷都されている。

問	正 解	テキストページ	解 説
16	ウ	139, 140	奈良時代の三河（参河）国には、賀茂郡・碧海郡・額田郡・幡豆郡・宝飫郡・渥美郡・八名郡の7郡が置かれ、現在の豊田市内は、主に賀茂郡・碧海郡の2郡にまたがっていた。
17	舞木	141	舞木廃寺の塔心礎と礎石は、現地で保存されており、見学することができる（舞木町丸根付近）。
18	ウ	143	北野廃寺（国指定史跡）は岡崎市にある四天王寺式の伽藍配置の古代寺院。慶雲廃寺は三河八橋付近（豊田市花園町～知立市）にあったされる古代寺院であるが、詳細は不明。伊保古瓦出土地は伊保町にあり、古代の瓦が出土した。
19	イ	153	七曲1号窯はみよし市境に近い丘陵に位置し、須恵器と灰釉陶器を焼成した古窯である。印刻花文や刻書文字などのある器も出土している。
20	ア	157	鎌倉時代において、高橋荘の領主は小野氏であったが、承久の乱で後鳥羽上皇方についたため没落し、中条氏に代わった。中条氏は尾張国の守護職などを務め、猿投神社に鎧や刀を寄進した。
21	イ	173～178 375	大給城は、大給松平家の本拠で、主郭からは尾張地方まで遠望できる。取水口のある谷を石垣で塞いで敵の侵入を防ぎ、水源を確保する珍しい遺構がある。また、近接地に大給松平家初代の墓がある。
22	長篠の戦い、 長篠合戦	180	写真の長篠合戦図屏風は長久手合戦図屏風と一雙の屏風で、豊田市指定文化財となっている。寺部渡辺家ゆかりの屏風で、渡辺半蔵守綱が強調して描かれている。
23	ウ	190, 191, 378	渡辺重綱は二代、規綱は十代で又日庵と号した茶人でもあった。寧綱は十一代。
24	イ		旧松本家長屋門では、内部に松本家に伝わる歴史資料や寺部の歴史・史跡を紹介するパネルを展示している。

問	正 解	テキストページ	解 説
25	鳥山牛助精元	193, 194	三河代官の陣屋は四郷村におかれたといわれ、精元は寛文6年（1666）に三河代官に就任した。当時の挙母村は、矢作川の洪水の被害を何度も受けた。人々は、堤防を築いた精元をたたえ、「精元堤」とも呼んだ。
26	イ		内藤正成は徳川十六将のひとりで、挙母藩内藤家の祖先・内藤家長の従兄弟にあたり、上野城（上郷町）にいた。本多忠勝は榊原康政と同じく徳川四天王に数えられる。宇都宮三郎は日本の工業化学の草分けで、「化学」という名称を使用した最初の人物。
27	ウ	197, 198	香嵐溪に紅葉を植えたのは、江戸時代の香積寺住職がはじめて、大正の終わりから昭和のはじめにかけて森林公園として整備された。
28	ア	222	足助は伊那街道（飯田街道）の中継拠点であった。明治以降は特に塩の流通が活発となり、足助では矢作川河口などで生産され、運ばれてくる塩俵の詰め直しが行われ、飯田方面へ運ばれていった。
29	ア		平成23年（2011）に選定された。全国に110地区ある（平成28年7月現在）。
30	イ	264	稲橋銀行は、稲橋村（稲武町）に設立された銀行で、初代頭取は古橋暉兒の子の義真。義真は父親同様、農産業の振興に力を入れた。
31	イ		風外本高は香積寺二十五世住職で画僧として知られる。中島秋孝は刈谷の俳人で板倉塞馬が師事した人物。都筑青可は寺部の俳人で、茶人としても知られる。
32	イ	228, 229	加茂一揆は、茅原村（豊松町）で起こって勢力を増した。足助の商家などを襲い、挙母城下に向かおうとしたところで鎮圧された。足助の商家も打ちこわしに遭っている。獄門・遠島・過料などの処分を受けた農民は1万人を超えた。

問	正 解	テキストページ	解 説
33	イ	199, 200	三宅康貞は慶長9年（1604）に挙母藩主となった人物。田中吉政は、豊臣秀吉の命で岡崎五万石と額田郡、賀茂郡（矢作川以東中心）を治めた人物。村上忠順は文化9年（1812）に高岡に生まれ、刈谷藩主の侍医を務め、国学者や歌人としても活躍した人物。
34	ア		内藤家の本家は、磐城平藩（陸奥国）のちに延岡藩（日向国）を治めた。他に内藤家が治めた藩は、高遠藩（信濃国）、岩村田藩（信濃国）、村上藩（越後国）である。
35	イ	210	岸田吟香は挙母藩飛地の美作国（岡山県）出身で、儒官として活躍し、日本初の和英辞書刊行、東京日々新聞の記者、目薬の販売など多くの業績があるが、剣術に関係するものはない。
36	イ		藤井達吉は碧南市生まれの美術工芸家で、小原和紙工芸の指導を行った人物。高橋節郎は漆芸家で、豊田市美術館に記念館がある。牧野敏太郎は、「霧の画家」といわれる牧野義雄の兄で、号を竹亭といい「七州城図」などを描いた人物である。
37	イ	280, 281	三河鉄道は大正3年（1914）に刈谷～大浜間の営業を開始し、翌年に刈谷～知立間が開通した。大正9年に知立～土橋間が開通した後、挙母、越戸、猿投と延長し、昭和3年（1928）に西中金まで開通した。その後、三河鉄道は名古屋鉄道と合併した。西中金駅舎は、平成16年（2004）に廃線となった後、登録文化財となり保存されている。
38	枝下用水	252	枝下用水の開削は明治19年（1886）に愛知県と民間の共同事業として始まるが、洪水や濃尾地震などにより工事は難航し、全幹線が完成したのは明治27年であった。西枝下から越戸・挙母の幹線水路と挙母から鴛鴨の支幹線が完成した後、愛知県が手を引き、民間事業となった。最高責任者となった西澤真蔵は財産を使い果たし、明治30年に死去した。

問	正 解	テキストページ	解 説
39	加茂蚕糸 加茂製糸	274, 275	かつて加茂蚕糸の煙突は、挙母町のシンボルであった。
40	豊田喜一郎	295~297	昭和12年(1937)にトヨタ自動車工業株式会社が誕生し、豊田喜一郎は副社長に就任した。翌年、論地ヶ原に挙母工場が操業したことにより、挙母町は好景気となった。
41	ア	305	現在の松平地区の坂上町に墜落したB29の乗員12人のうちのひとは落下傘で下山地区の山中に降りて助かった。墜落場所には「B29友好碑」が建てられている。
42	エ	304	文化財を疎開させた小栗鉄次郎は、現在の豊田市千鳥町出身で、愛知県史蹟名勝天然記念物調査会主事として文化財の保護に努めた。
43	平勝寺	373 409	もとは集落内で新仏(その年に亡くなった人)の家を回り、念仏を唱えて供養し、手踊り(盆踊り)を踊ったものだが、現在では平勝寺の境内で行われている。盆踊りは楽器を使わず、音頭とりの唄にあわせ下駄の足拍子だけで踊る。
44	ウ	318~320	反対運動がおこったが、企業とともに発展していくことを願って市名変更が行われた。
45	ウ	256	ガラ紡機は明治初期に信濃国の臥雲辰致 <small>がうんたち</small> が発明したもので、紡績の時にがらがらという音がすることからガラ紡といわれた。
46	ア	327	猿投ダンプ事故は全国に報道されて大きな衝撃を与え、それ以後に製造されたダンプのブレーキなどの構造を変えた。
47	喜楽亭		現在は、ひな人形・五月人形の展示があるほか、茶会などに利用されている。
48	ア		隣松寺(幸町)には、家康が戦いの時の守り本尊としたという冑三尊などが伝わる。

問	正 解	テキストページ	解 説
49	エ	354~360	上郷町は昭和39年(1964)、高岡町は昭和40年、猿投町は昭和42年に豊田市と合併した。
50	イ		豊田市郷土資料館では、平成29年度に開館50周年記念特別展を開催する予定である。